

召会の奥義

聖書：啓 10:7. ローマ 16:25. エペソ 1:5, 9, 11, 22-23. 3:3-11. I コリント 6:17

- I. エペソ第3章3節から11節が啓示しているのは、わたしたちが召会の奥義としてのキリストを経験し享受することができるということです。
- II. 神の隠された、定められた御旨は、奥義です。そして、この奥義を開くことは、啓示です。聖書は、奥義の啓示について語っています——ローマ 16:25. エペソ 3:3, 5:
- A. キリストの奥義である召会は、別の世代では隠されていましたが、新約の時代において啓示されています——5節。
- B. この奥義は、各時代にわたって神の中に隠されていましたが、しかし今や、新約の信者たちは、照らされたので、それを見ることができます——9節。
- C. キリストの奥義は、啓示によって使徒たちと預言者たちに、彼らの霊の中で啓示されています——5節:
1. キリストと召会に関する新約の啓示は、ミングリングされた霊によって、使徒たちと預言者たちに明らかにされます。
 2. わたしたちの霊が神聖な霊とミングリングされるとき、わたしたちの霊は、キリストの奥義が啓示される器官となります——I コリント 6:17. エペソ 1:17. 3:5。
- D. もしわたしたちが隠された奥義の啓示を見ようとするなら、わたしたちは内なる人の中へと、すなわち、わたしたちの再生された霊の中へと増強される必要があります、またキリストにわたしたちの心の中にご自身のホームを造っていただく必要があります——14-17節前半。
- E. ローマ第16章25節と26節でパウロは、奥義の啓示について語っています：「イエス・キリストについての宣べ伝えにしたがって、世々にわたって沈黙のうちに保たれてきた奥義が啓示されることにしたがって……この奥義は今や現され」。
- III. 第七のラッパは、手順を経た三一の神の永遠のエコノミーの結論として、現在の奥義の時代を閉じます。このゆえに、啓示録第10章7節は言います、「神の奥義は完成される」:
- A. 「ビジョンと預言者を封じ」(ダニエル 9:24 後)るとは、奥義の時代を閉じること、すなわち、神の奥義を完成することです(啓 10:7. I テモテ 3:9)。
- B. アダムからモーセまでの時代と、モーセからキリストまでの時代において、あらゆることは明らかにされ、現されたので、奥義はありませんでした。
- C. 千年王国の時代と新天新地においても同じです。あらゆることは明らかにされ、もはや奥義はありません。

- D. キリストご自身(コロサイ 2:2)、召会(エペソ 3:4-6)、天の王国(マタイ 13:11)、福音(エペソ 6:19)、キリストの内住(コロサイ 1:26-27)、この奥義の時代の終わりとしての聖徒たちの来たるべき復活と変貌(ヘンぼう I コリント 15:51-52)は、すべて世々にわたって隠されていた奥義です(ローマ 16:25、エペソ 3:5、コロサイ 1:26)。
- E. 第七のラッパが吹かれるとき、これらすべての奥義は完結され、完成され、過ぎ去ります。
- F. 第七のラッパが吹かれるとき、地に対する神の激怒の裁きだけでなく、神の奥義も完成されます。
- G. キリストが肉体と成ったときから千年王国までの時代、すなわち、召会時代、恵みの時代においては、あらゆることが奥義です：
1. キリストの肉体と成ることは奥義です。それは奥義の時代の開始です——I テモテ 3:16。
 2. キリストは神の奥義です——コロサイ 2:2。
 3. 召会はキリストの奥義です——エペソ 3:4-6：
 - a. キリストは奥義です。召会は、キリストを表現するキリストのからだとして、キリストの奥義です。
 - b. キリストと召会が一つ霊となることは、偉大な奥義です——5:32、I コリント 6:17。
 - c. 召会時代、奥義の時代の期間、キリストは召会を建造して、彼の花嫁とならせつつあります——マタイ 16:18、エペソ 4:16、啓 19:7-9。
 4. 天の王国、キリストの内住、聖徒たちの復活と変貌は、すべて奥義です——マタイ 13:11、コロサイ 1:26-27、I コリント 15:51-53。

IV. 召会の奥義は、宇宙における究極の奥義です：

- A. 召会は、神の永遠のエコノミーにおける隠された奥義です——エペソ 3:9-11：
1. 宇宙の奥義は神であり、神の奥義はキリストであり、キリストの奥義は召会です——創 1:1、啓 4:11、コロサイ 2:2、エペソ 3:4。
 2. エペソ第3章4節によれば、召会には一つの特別な名称があります。それは「キリストの奥義」です。
 3. 新約以前の各時代においては、召会の奥義は人から隠されていました。新約の時代においてのみ、この奥義は使徒たちと信者たちに啓示されています——5節、コロサイ 1:26。
 4. 召会の奥義は、過去の永遠から旧約の時代を通して、隠されていました。しかし、新約の時代において、この奥義はキリストにあるすべての信者に対して明らかにされています。
 5. 新エルサレムにおいて、神はご自身が創造した人において、永遠で満ち

満ちた表現を得ます。これは、宇宙における究極の奥義、すなわち、召会の奥義です——エペソ 5:32。

6. わたしたちの霊は、強くて知恵と啓示に満ちている必要があります。それはわたしたちが召会の奥義を認識するためです——1:17。

7. キリストの奥義と召会の奥義は、偉大であり、また深いのです。

B. 偉大な奥義、すなわちキリストと召会は、宇宙と人生の意義です——啓 4:11. エペソ 5:32:

1. 神が万物(人を含む)を創造した意図は、人が神とミングリングされて、召会を生み出すことでした——ゼカリヤ 12:1. エペソ 3:9。

2. 神の心の願いは、キリストの奥義、すなわち、キリストの増し加わりと表現としてのキリストのからだを持つことです——1:5, 9, 11, 22-23。

3. からだの生活は、わたしたちの霊的経験の究極的な満足です——5:30。

4. 各時代にわたって神の中に隠されていた奥義のエコノミーは、キリストのからだとしての召会の奥義です——3:9-10。

5. キリストの奥義と召会の奥義は、わたしたちの日ごとの生活であるべきです。この奥義がなければ、わたしたちの生活は人の生活にすぎず、クリスチャンの生活ではありません——4 節. I テモテ 3:15-16。